

富津市国民健康保険事業運営協議会会議録

1 会議の名称	令和元年度 第3回富津市国民健康保険事業運営協議会
2 開催日時	令和2年2月17日(月) 午後1時30分～午後2時18分
3 開催場所	富津市役所 2階202会議室
4 審議等事項	議件  (1) 令和2年度富津市国民健康保険事業特別会計予算(案)について(諮問事項)
5 出席者	委員 齊藤千代子 平野順子 齋藤茂 浅野英治 竹内修 山崎智子 福原敏夫 永井庄一郎 千倉淳子 林裕 事務局 高橋恭市 島津太 尾形卓信 平野巳貴 牧野常夫 鹿島亜希子 廣川明日香
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0人(定員2人)
9 所管課	健康福祉部 国民健康保険課 電話 0439(80)1271
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

令和元年度 第3回富津市国民健康保険運営協議会会議録

- 1 日時 令和2年2月17日(月) 開会 午後1時30分  
閉会 午後2時18分
- 2 場所 富津市役所 2階202会議室
- 3 出席委員  
齊藤 千代子 (1号委員)  
平野 順子 (1号委員)  
齋藤 茂 (1号委員)  
浅野 英治 (1号委員)  
竹内 修 (2号委員)  
山崎 智子 (2号委員)  
福原 敏夫 (3号委員)  
永井 庄一郎 (3号委員)  
千倉 淳子 (3号委員)  
林 裕 (4号委員)
- 4 欠席委員  
金井 徳彰 (2号委員)  
熊切 篤 (2号委員)  
松原 和江 (3号委員)
- 5 議件  
(1) 令和2年度富津市国民健康保険事業特別会計予算(案)について  
(諮問事項)
- 6 その他
- 7 事務局職員  
高橋市長 島津健康福祉部長 尾形国民健康保険課長  
平野国民健康保険課長補佐  
牧野健康づくり課長 鹿島特定健診係長 廣川主事

平野補佐

定刻となりました。本日、欠席される旨ご連絡いただいている方を除いてお集まりいただいております。

会議を始めます前に、委員の皆様にご報告申し上げます。

富津市情報公開条例第23条第1項の規定により、市の附属機関等である審議会等の会議は、一部の場合を除いて公開で行うべきものとされており、同条第2項の規定により、何人も公開とされた会議を傍聴することができることとされておりますが、いまのところ、本運営協議会を傍聴される方はいらっしゃいませんので、ご報告申し上げます。

それでは、ただ今より、令和元年度第3回富津市国民健康保険事業運営協議会をはじめさせていただきます。

お手元の次第により、進めてまいります。

なお、富津市国民健康保険事業運営協議会の委員定数は13名でございます。本日、10名の委員の方に出席いただいておりますので、その過半数を超えておりますので、運営協議会は成立いたします。

それでは、次第の2、「会長挨拶」でございます。福原会長よりご挨拶をお願いいたします。

福原会長

それでは皆さんこんにちは。お忙しい中お集まりいただきまして、誠に感謝申し上げます。

昨年から災害があり、また今年に入りまして毎年の事ながらインフルエンザが流行っておりまして、学校における学級閉鎖等がございましたが、それが大きく拡がらずに今日に至ったという事で、竹内先生に先ほど聞いた話によると、子供、幼稚園児等はほぼ終息に至りつつあるという事でしたので、ひと安心といったところではないかと思っております。

ただ、富津といえども、都会に出られる方もたくさんいるでしょうから、今流行りのコロナウイルスを持ち込まないという保証は無い訳で、事によったら、富津市にもコロナウイルスが持ち込まれてしまった、という声上がるかもしれませんので、委員の皆様におかれましては各所で情報等があるでしょうけれども、もしそのような声ございましたら、いち早く担当に連絡し、最前線で発見及び対策ができるように執行の準備がなされている次第だと思っておりますので、引き続き皆様にはよろしくお願いしたいと思います。

本日は国保の特別会計予算案という事で、委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りまして、最後にはご承認いただくと同時に、諮問した執行部の方に出したいと思っておりますので、よろしくご協議いただきますようお願いいたします。

平野補佐

ありがとうございました。

次に、次第の3「市長挨拶」でございます。高橋市長から、ご挨拶を申し上げます。

高橋市長

本日は、公私共にお忙しいなか、御出席賜り誠にありがとうございます。

先ほど開会前及び福原会長よりお話のありましたとおり、コロナウイルスが世界の各所で発見され、日増しに患者が増え続けているという事で、非常に怖い状況でございます。私どもといたしましても、現在庁内

に新型インフルエンザ等という名称ではございますけれども、現状は、コロナウイルスに対する対応である「庁内連絡会議」を既に立ち上げさせていただいております。国や県、各種関係機関と連絡を密にしながら、もし仮に、市内に感染が広がってしまった時には、対策会議等も立ち上げながら対策を進めていきたいと思っておりますし、現状で、あまり過剰な反応をいたしますと、当市はこれから観光シーズンを迎えますので、風評被害等起こしかねないとの観点から、対策については、慎重に進めていきたいと思っております。

本日は竹内先生並びに薬剤師の山寄先生にもお越しいただいておりますので、ご意見・ご指導等賜れる部分がございますら後程ぜひお願いいたします。

改めまして、委員の皆様におかれましては、日頃から国民健康保険事業の円滑な運営に、御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、令和元年台風第15号、第19号等の災害により、床上浸水を含む半壊以上の被災された方に、令和2年3月診療分までの一部負担金免除証明書を交付したところです。

また、国民健康保険税につきましては、3割以上被災された方の、減免申請を受付けております。

免除及び減免における、3割以上ですとか、半壊以上という単語については分かりにくい部分等あるかと思いますが、半壊の中に、3割に満たない方も中にはいらっしゃるという事で、今回このような表現をしております。もし詳細につきましてご不明な点等ございましたら、後程担当の方にてご回答させていただきたく思っております。

一方、健康都市富津を目指すため、各種健康増進事業とともに、保健事業についても、引き続き取り組んでいるところです。

なかでも、特定健康診査、特定保健指導事業を実施し、令和2年度から新たな取り組みとして、集団検診での推算塩分摂取量検査の実施や心電図実施対象者を拡大すると共に、家庭血圧測定の習慣化を図るため、保健指導時に測定結果を提出した方に、可燃ごみ袋を進呈するなど、心疾患や高血圧症などの生活習慣病の重症化予防に努めてまいります。

今後も引き続き、国及び県からの情報を注視し、保健事業の積極的な取り組みにより、健康寿命の延伸、医療費の適正化・抑制に鋭意努力してまいりますので、委員の皆様方のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、本日の会議内容につきましては、議件として、令和2年度富津市国民健康保険事業特別会計予算（案）についての1件でございます。

よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

平野補佐

ありがとうございました。

次に、次第の4、議事でございます。

富津市国民健康保険条例施行規則第6条に「運営協議会の議長は会長とする。」と規定されておりますので、議事進行は、福原会長にお願いしたいと存じます。よろしく申し上げます。

福原会長

それでは、富津市国民健康保険条例施行規則第6条の規定により、次第に沿って、議事進行を務めさせていただきます。

それでは、議件（1）の「令和2年度富津市国民健康保険事業特別会

計予算（案）について」を議題といたします。  
事務局の説明を求めます。

平野補佐

「令和2年度富津市国民健康保険事業 特別会計 予算（案）」について、ご説明申し上げます。

まず、歳入科目から説明申し上げます。

資料の1ページをご覧ください。

この表の左半分、左から順に

科目名称、

令和元年度当初予算額、

令和2年度当初予算額、

令和2年度予算額と令和元年度予算額の増減額を記載しております。

表の右半分には、科目ごとの概要を、記載いたしました。

それでは、科目ごとに、令和2年度当初予算額と、令和元年度当初予算額を比較しながら、ご説明申し上げます。

1 款の国民健康保険税でございます。

国民健康保険税につきましては、昨年度と同様の率となっております。

徴収率については、現年度分の普通徴収を88%、一般分の滞納繰越分を17.5%、退職分の滞納繰越分を19%で見込んでおり、9億1,142万2千円で、昨年度と比較して、3,750万2千円の減額となります。

また、令和元年度から実施いたしました18歳以下の被保険者の属する世帯への均等割相当額の減免措置の影響額750万円を考慮し、算出しております。

次に、2 款の使用料及び手数料は、保険税に係る督促手数料で、昨年度と同額の60万円の見込みでございます。

次に、3 款の国庫支出金は、災害臨時特例補助金を昨年度と同額の20万円で計上しております。

次に、4 款の県支出金でございますが、県からの交付金等で、43億6,129万5千円の見込でございます。

このうち、普通交付金は、医療費のうち、被保険者が医療機関等で負担した一部負担金を差し引いた残りの7割分や高額療養費などの保険給付費に対して交付されるものです。

特別交付金は、医療費適正化に向けた取り組みに対する保険者努力制度分、保険者間での財政力の不均衡を調整するための交付金、特定健康診査等負担金などでございます。

2 ページの歳出、2 款保険給付費をご覧ください。令和2年度の保険給付費は42億6,801万3千円で昨年度に比べ、811万1千円の減となっているため、その財源となる、1 ページに戻りまして、歳入 4 款の県支出金の普通交付金につきましても、昨年度と比較して、601万円の減を見込んでおります。

特別交付金に関しましては、県で示された数値で計上しており、合計1億1,218万9千円を見込んでおり、昨年度と比較しまして、12万8千円の減を見込んでおります。

次に、5 款の財産収入ですが、国民健康保険基金積立金の利子で、昨年度と同額の5万円の見込でございます。

次に、6 款の繰入金ですが、事務費、職員人件費及び、基盤安定繰入

金等の一般会計からの繰入金、4億4,179万4千円と、基金繰入金、2億7,210万2千円を合わせて、7億1,389万6千円の見込でございます。

昨年度と比較して、1億1,465万1千円の増額となります。

次に、7款の繰越金ですが、昨年度と同額の、1千円の見込でございます。

次に、8款の諸収入ですが、保険税に係る延滞金、不当利得や第三者行為求償による保険給付費の返納金などの収入で、昨年度から1万1千円減額の653万6千円の見込でございます。

以上の歳入を合計致しまして、59億9,400万円の予算額で、昨年度と比較して、7,100万円の増額でございます。

続きまして、歳出について、ご説明申し上げます。

2ページをご覧ください。

まず、1款の総務費でございます。これは国保事業を運営するための事務費及び職員給与費等で、昨年度と比較して826万9千円増の1億8,384万1千円の見込でございます。

増額となった主な要因としては、定期昇給及び人事異動による人件費の増及びラインペイ請求書支払の導入による手数料の増によるものです。

次に、2款の保険給付費は、被保険者が窓口で支払った、自己負担額の残りの療養給付費や高額療養費などで、42億6,801万3千円を見込んでおり、昨年度と比較して、811万1千円の減額となります。

療養諸費及び高額療養諸費につきましては、療養費の一般被保険者については121万3千円の増、退職被保険者については19万2千円の増を見込んでおります。また、高額療養費の一般被保険者分については3,301万9千円の増を見込んでおりますが、それ以外は、被保険者数の減少により、総じて昨年度に比べ、減額となっております。

出産育児諸費につきましては、平成30年度決算及び令和元年度決算見込から考慮し、令和元年度予算で35件と見込んでおりましたが、令和2年度につきましては30件で見込んでおります。

葬祭諸費につきましても、平成30年度決算及び令和元年度決算見込から考慮し、令和元年度予算と同じく120件と見込んでおります。

移送費につきましては、昨年度と同額の10万円を見込んでおります。

次に、3款の国民健康保険事業納付金でございます。

この科目は、県で計算した県全体の額から市町村毎に割り当てられ、割り当てられた額を県に納付するものでございます。

歳入の保険税は、この納付金と保健事業などの市単独事業の支出等をまかなうために賦課徴収することになります。

予算といたしましては、14億2,250万円を見込んでおり、昨年度と比較し、8,350万円の増となります。

医療給付費分につきましては、千葉県全体の1人当たりの医療給付費分の増及び当市の平成28年度から平成30年度の平均の医療費指数が上がったことにより、納付金として納める額も増額となったことによるものでございます。

介護納付金分につきましては、県が見込んだ千葉県全体として支払う介護納付金が増額となったことにより、当市の納める額も増額となったものでございます。

次に、4款の共同事業拠出金については、退職者医療制度の対象者を

把握するための年金受給者一覧作成に係る経費で、千葉県国保連合会へ支払うもので、昨年度と同額の5千円を見込んでいます。

次に、5款の保健事業費は、特定健康診査事業、特定保健指導事業、国保保健指導事業、レセプト点検や短期人間ドック費用助成といった総合健康指導事業、医療費通知やジェネリック医薬品の差額通知と希望シールの購入経費などの医療費適正化に係る事業で、合計で9,596万1千円を見込んでおります。

昨年度と比較して、特定健康診査等事業費の216万9千円の減につきましては、被保険者数の減により特定健康診査委託料が減額となったものでございます。

保健事業費の408万9千円の減につきましては、レセプト点検委託料の1件当たりの単価が減ったことによる減及び短期人間ドック費用助成金の日帰り・通院に係る1件当たりの単価を平成30年度決算額及び令和元年度決算見込額から算出した結果、減額となったものでございます。

次に、6款の国民健康保険基金積立金は、基金の利子に係る積立分で、昨年度と同額の5万円の見込でございます。

次に、7款の公債費は、一時借入金の利子で、昨年度と同額の50万円を計上いたしました。

次に、8款の諸支出金は、過年度分国民健康保険税の還付金、前年度以前に超過交付を受けた県の交付金の返還金などで、1,313万円の見込でございます。

昨年度との比較で640万円の減につきましては、償還金及び還付加算金及び特定健康診査等県負担金の返還金として平成30年度決算額及び令和元年度決算見込額から、昨年度より減額で見込んだことによるものです。

次に、9款の予備費は、昨年度と同額の1,000万円の見込でございます。

以上、歳出合計59億9,400万円の予算額でございます。

次に、実質単年度収支ですが、△2億7,205万3千円で、昨年度と比較して△1億820万9千円の増額でございます。

次に、基金残高でございますが、令和元年度予算では、元年度末で6億9,039万9千円と見込んでおり、令和2年度当初予算において、2億7,210万2千円を繰入れ、基金利子分、5万円を積み立てる見込みで予算化していることから、令和2年度末で差引き、4億1,834万7千円の基金残高見込みとなります。

これは、令和2年度においても、標準保険税率、及び国保事業費納付金が増加したにもかかわらず、国民健康保険税の税率を昨年度と同率とし、基金を活用することで、被保険者の負担とならないようにしたところでございます。

また、令和2年度当初予算の実質単年度収支は、△2億7,205万3千円となり、千葉県全体の1人当たりの保険給付費の増、及び富津市の医療費水準が高いことから、県から示された標準保険税率、国保事業費納付金も増加しておりますので、令和3年度には保険税率の見直しを検討することを考えております。

次に、1人当たりの保険税額は、8万892円で、昨年度と比較して、506円の減額でございます。

次に、1人当たりの保険給付費額は、38万3,708円で、昨年度と比較して、7,661円の増額でございます。

次に、1人当たりの国保事業費納付金額は、12万8,686円で、昨年度と比較して、1万138円の増額でございます。

以上で、「令和2年度富津市国民健康保険事業特別会計予算（案）について」の説明でございます。

福原会長 只今、事務局より説明がありましたが、何か質問はございますか。

林委員 歳出のところの2ページ目、第5款保険事業費の特定健診の検査なんですけれども、今現在確か500円の自己負担をされているはずですが、令和2年度も同じく500円でお考えなのでしょうか？

牧野課長 はい。林委員のおっしゃる通り、令和2年度も同様に自己負担は500円で考えております。

林委員 協会けんぽ、つまり被用者保険でのお話なのですが、令和2年度から一部の人間ドッグ係とかに所属している健診機関は、今まで500円だったところが0円になるというのがありまして、それ以外の県医師会所属の機関は、10%で1,498円だったところが、来年度の4月から950円になるということで、協会けんぽ側の負担を500円増やすという事を現在進めているところではございますので、今富津市さんでは負担額がどのようになっているかなと思ったところではございます。

費用徴収の問題もあるかもしれませんが、特定健診も、被用者保険の方が国民健康保険の方と一緒に集団健診会場とかで受け入れていただくという事ができればな、というお願いを申し上げさせていただきたいと思います。以上です。

福原会長 よろしいでしょうか？他に何かございますか？

千倉委員 歳出の方の2款の出産育児一時金の見込みが30件というのを今お聞きして、現段階で年度始まってから十月十日経っているので、おおよその人数や件数についての推測はつくのだろうと察しがつくのですが、今出ている人数プラス今後出産される方のプラスアルファの予測によって、この30件というのが導き出されたのか、この数字の導き方の根拠を教えてもらってもよろしいですか？

尾形課長 この数字に関しては、平成30年度の実績と令和元年度現時点での見込みから推測しておりまして、平成30年度につきましては23件、平成29年度につきましては30件で、いまのところ35件にまで達しないという事で、少し下げて30件という事で見込をしております。

千倉委員 分かりました。という事は、多く見積もって30件という事なんですよね？

尾形課長 そうですね。

千倉委員 なるほど。とても寂しいなと思ひまして。ありがとうございます。では同様に、葬祭費の方の120件も、どのような導き方をしてこの見込の件数になったのか教えてもらってよろしいですか？

尾形課長 はい。葬祭費の件数につきましても、平成30年度の実績と令和元年度現時点での決算見込みから算出したものになりまして、平成30年につきましてもは104件、令和元年度につきましてもは、1月31日時点で83件と、予算上では120件ですが、これだけあれば問題なく執行できるかと考えまして、120件とさせていただいたところでございます。

千倉委員 分かりました。生まれる件数よりも亡くなる件数の見込みの方が4倍も多いというのが、富津市の現状を非常に考えさせられるなと思ひまして、聞かせていただきました。ありがとうございました。

福原会長 よろしいでしょうか？他にある方いらっしゃいますか？

齋藤茂委員 今回の件に関して、あくまでこの数字は国民健康保険の加入者に限った数字なんですよ？市全体では、出生の数というのはどのくらいなのでしょう？また、亡くなられている方の人数とかも、富津市全体でどのくらいになるのでしょうか？

牧野課長 出生件数についてなんですけれども、今年度およそ150件程度の見込みであると考えております。富津市全体で、です。

齋藤茂委員 なぜそのような事を伺ったかと言いますと、今国民健康保険の加入者自体が年々減少傾向で、その一方、65歳以上の方も含めて、医療費がどんどん高額になってきていると聞いております。そんな中で、一人でも多くの方が出産される事を期待するところであり、将来国民健康保険の中に若い方が多く加入していただければ、今後の財政状況含めてまた大きく変わってくるかなと思ったところでしたので、質問させていただきました。

福原会長 よろしいでしょうか？ありがとうございます。他に何かある方はいらっしゃいますか？

齊藤（千）  
委員

うまくお話を組み立てられるか分かりませんがご質問いたします。  
2ページの歳出のところなのですが、私自身今まで基金や予備費を甘く捉えていたんですね。

ですが、今年度台風に見舞われたり、ウイルスの脅威があったりと、今までにない経験をしていますよね？

そう考えると、今まで甘く捉えていた基金や予備費が非常に大事になってくるのではないかと改めて最近思うようになったんです。つまり、きちんと計上しておかなければ、何かあった時に支出ができない事態になってしまうなど。

国からの補助等はあるかと思いますが、市のスタンスとして、きちんと基金や予備費を持っておくという事は非常に重要であるのかなと思います。

ただ、そう思う一方で、先ほど税額について今後考えていかななくてはならないという事を事務局の方がおっしゃっていたんですけども、おそらく増額であるかとは思いますが、具体的にはどのようなお考えでいらっしゃるのでしょうか？

福原会長

ありがとうございます。齊藤委員のおっしゃる事としては、先ほど基金が多くある一方で、今後どのような事態に見舞われるか分からないので、税額の見直しが必要なのではないかと、いう事ですね。

先ほどの事務局の説明では、端的に言えば基金を2億円以上減らしてしまった事になります。

そんな中で、今後さらに未知のウイルス等入ってきた時には、この倍もしかすると対策費用がかかる事も考えられる訳で、その意味ではやはり予備費として基金等を持っておく事が大事であるかと思いますが、その点について、島津部長いかがお考えでしょうか？

島津部長

先ほどの説明の中で、単年度の収支が2億7千万円ほど赤字になっているんですね。これを埋めるために、令和元年度についてはまず、基金から投入いたしたところでございます。ですが、基金もふんだんにある訳ではないので、2億7千万円を毎年継ぎ足す事は、今現状4億1,800万円しか残高が無い訳なので当然不可能であります。

そしてさらにそこで、先ほど言ったようなウイルスですとか、大きな疾病が仮に発生してしまっても、巨額の医療費が出てってしまった場合に、基金が全然無いという事であれば、そういう事態に耐えられない。

ですので、令和3年度の保険税の税率については、見直していかざるを得ないと思います。先ほど歳出のところ、県に納める納付金が、医療費が高騰している関係で昨年よりも高くなってきているという事で、それを支払うために、やはり国保の予算を組むうえでは、税率の見直しを検討せざるを得ないと考えております。

齊藤（千）  
委員

ありがとうございます。そういう流れにならざるを得ないのであろうという事は分かります。

島津部長

です。一番良いのは、一人当たりの医療費をどうにかして抑えていく事にはなるんですが、保健指導や特定健診、がん検診等、かなり力を入れてはいるんですけども、なかなか受診率が上がらないというのが現状でございます。

また、重症化を予防していくといううえでも、健康づくり課をはじめ頑張っているのですが、地域性といいますか、健診に対する意欲等がなかなか親身に湧いてこないというのが現状です。色々な手立てをして住民に働きかけてはいるんですけども、まだ何か足りないのかなと思うところがございます。

何か皆様の方でも、「こういう風にやれば受診率があがるのではないか」という意見がございましたら、ぜひお聞かせ願えれば非常にありがたいです。

福原会長

なるほど。先生の立場からはいかがでしょう？

竹内委員

2月の中旬頃に3師会がありましたよね。その中で、胃がん検診の受診率が1.9%ほどでしたか。非常に低いですよ。全国的にはもっと高いかとは思いますが。

やはりどうしても、検診というのは病気が起因して治療を受けている訳ではないので、認識が甘いということがあるんですよ。腎臓病もそうですが、透析も多いですし、やはり地域的にも塩分摂取量が多いという事もありまして、病状も読めない方も中にはいらっしゃるんで、啓蒙運動などをしっかりやるべきであると思っております。

特に、インフルエンザに関しては今年は非常に少ないんですけども、COVID-19もだんだん蔓延してきておまして、市中感染のレベルに入ってきていると言えそうですよね。厚労省からも色々指導があって、治療に関する事とか受診に対する基準なども色々出てきておりますけれど、本当にもう感染という事に関してはすでに時間の問題であると言えますし、流行ってしまうと財政的に厳しい面もあるでしょうから、きちんと対策に関しては慎重にやっていただきたいと思っております。今後はおそらくワクチンなど出てくると思いますが、検査方法などもしっかりしてくれば、より早めに予防に対し着手できると思っております。各所非常に苦慮されている事でしょうけれどもね。

福原会長

竹内先生、ありがとうございました。他にございませんか？

千倉委員

基金の説明があったのでそれに関連してなのですが、やっぱり基金がある事が、先々のこういった事態に大事であるという事に関しては非常に同感なのですが、前にお聞きした時に、近隣4市で比べた際、富津市はとても基金が多かったような気がするんですね。例えばコロナウイルスの危険性とかは富津市だけの問題ではなくて、近隣また全国でも全く同じような状況だと思います。

そういった時に、基金の多い市とそうでない市とで、どのような違いが出てくるのでしょうか？基金を持っているのは非常に良い事だと思いますが、逆に不安になってしまう事もありまして、例えば基金が多け

れば国からの補助が少なくなってしまうだとかがあるのかなと考えて、基金残高の多い少ないというのは、具体的にどのように違って、どのように影響として出てくるのかとかその辺をお聞かせ願えますでしょうか？

尾形課長

近隣4市で比べた基金の状況に関しましては、確かに富津市が多いんですけれども、それは会計処理の仕方にも起因する部分がございます。

例えば君津市につきましては、前年度からの繰越金を、翌年度に全て繰入れをして、基金に積まないような会計処理をしています。その中で繰越金を見ますと、基金が多い状況がありますので、その辺が会計処理上の問題で、基金残高が多い、あるいは繰越金としての金額が多い、という面で違いに見えてくるのではないかと思います。

また、国からの補助金についてですが、基金残高が多いからといって、国からの補助に何かマイナスの影響が出てくるというのは、今の段階ではございません。

福原会長

他に何かございませんでしょうか？

林委員

胃がん検診の受診率についてのお話が出たと思うんですけれども、まさに私が最初にお話ししたところで、被用者保険の方は、特定検診は協会けんぽ側がやって、がん検診の方は自治体がクーポン券なり何かで案内を配って実施をします。一方、国民健康保険の方はどちらも自治体が行います。住民の側からすれば、自己負担の部分でもさらに違いがあったりもしますので、少し分かりづらい部分があるのかなと思います。

ですので、今お願いといたしましては、各自治体のがん検診の受診率を上げるという事を実現するために、被用者保険の加入者も、自治体の方の特定健診と一緒に受診できるといいなと思います。そうすれば、がん検診も自治体と一緒に受けてもらう事が可能ですよね。同じ検査内容なのに、国保でなく被用者保険の方は2回も行かなくてはならない、という事がありますので、重ねてそこをお願いしたいところであります。

また、なぜそこが実現しないのかというのは、各自治体で足並みが揃っていない事はもちろんなのですが、特定健診の受診券の種類が違うという事もありまして、つまり、種類が違うと窓口での受付作業が違うので、混乱を招くと。だから、午前午後に分けるとか、あるいは、こちらでは自己負担があり、一方では費用負担がないですとか、会計上、お釣りの問題で混乱するというのがあったりだとか、事務手続きが非常に煩雑であり、なかなかそういった取り組みが進んでいかない、と自治体の担当者からはよく聞く事なんです。

ですが、受診率を上げて重症化予防を促進していくためには、やはり費用や会場等について工夫が必要なのではないかと私は思います。特定健診の実施も、自治体主催とはいえど委託して実施されている部分はあるとは思いますが、毎年契約になるかと思うんですけれども、それは先ほど申し上げた人間ドック係とかに加入されている機関は今年度まで500円だったのが0円になるという事もあるわけです。もし同じところでやるという事なのであれば、先ほど令和2年度も500円とおっしゃられてましたが、足並みを揃えて例えば0円にして、協会けんぽの

方も一緒に検診会場で受け入れていただく、そして一緒にがん検診も受診していただくと。そのくらい踏み込んだ見直しがあった方が、住民の方としても利便性があるのではないかと思います。

またもう一つとしては、血液クレアチニンですかeGFRですとか、腎機能の血液検査などによって、腎機能がどのような状況であるかの数値も見れるという事にもなっているんですけども、この辺もそのように医療関係者の方が数値を見て、どのように案内ができるかというのが大事であります。一つの知識の標準化ですとか、そういったガイドラインを、医師会等できちんと定めていただくと非常にいいのかなと思います。早期発見をして早期に専門の方に診てもらおうといった、連携がきちんとできればいいなと思っております。

福原会長

受診率が上がらない、というのがやはり問題でありまして、各所色々悩みがあり、工夫が必要であるとは思いますが、齊藤委員、どうぞ。

齊藤（千）  
委員

実は私事なのですが、1月に帯状疱疹をやりまして、でもなぜか痛い場所と違ったので、5つくらいの医療機関に、どこのお医者さんもはっきりとした事は言わないので、節操もないと思いながら痛いのが治まらず受診したんです。結局、最後のお医者様でやっと帯状疱疹だと診断していただきましたが。

その最後のお医者様にかかる前に、痛いのが腸の方だったから、今まで受診した事も実は無かったという事を医師の方に言ったら、大腸健診を勧めてくださったので、亀田病院の方にお医者様が紹介して下さって、予約をとっていただいたんです。

そのように、医師の方が不調に対してすすんで何か案を勧めてくださるとするのは患者にとっても安心する部分はあると思います。

先ほど林委員が医師の方にガイドラインの整備等をしていただけたら、とお話しされていたのですがまさしくそうで、医師の方にきちんとした対応や処置を勧めていただければ、安心して住民の方も受診できるようになると思いますし、受診率の向上にも繋がるのではないのかな、という意味で、お医者様にもより頑張っていただきたいなと思っております。

福原委員

医師の方も、おそらく管内の地域で市が指定して、検診をしていただいているお医者様なんかは非常に尽力されていると思います。

ですが、そこに行く人が、駒はたくさんあるけれどもできるだけ駒は使わないように、という事で、つまるところ私もそうですけれども、検診というのは、行政がお金を出してくれてまで検診を受けさせてくれるいわば最高のプレゼントのようなものであって、それがなくては検診とはいえず実費で行かなくてはならないわけですから、大事にしなければいけないのに、皆さん忙しさが優先してしまっていて行かない、というのが現状であります。

市の方でも散々呼び掛け、PR等していますが、現況の数字をなかなか引き上げられない、というのが往年の悩みであります。林委員のおっしゃる通り、手法を変えたり工夫をしたり、という事が必要であるのかもしれませんけれども、執行部そして現場に従事する方も今後は改善が必

要であるのかなと思います。

ありがとうございました。他に何かございますか？

質問もないようですので、審議を終了します。

議件（１）の「令和２年度富津市国民健康保険事業特別会計予算（案）について」は、諮問のあったとおりとする旨、答申することとしてよろしいでしょうか。

ご異議ございませんか。

では、賛成の委員は、挙手をお願いします。

・・・・・・・・委員挙手・・・・・・・・

福原会長

異議なしと認めます。それでは、議件（１）について、この旨を答申いたします。

なお、答申書の書面については、私に一任いただいてよろしいでしょうか。

・・・・・・・・委員から「異議なし」の声あり・・・・・・・・

福原会長

審議については、以上であります。委員の皆様から、他に何かございますか。

齊藤（千）  
委員

先生がおいでですので、最後に一つだけよろしいでしょうか？

今、コロナウイルスについて、千葉県が何人ですとか、県単位で人数が出ていますよね？プライバシーの面で質問なのですが、例えば富津市で感染者が出た、ですとか、今は県単位での報告ですけれども、それが市単位での報告になったりはするのでしょうか？

牧野課長

私の方で回答させていただきます。

そちらの取り扱いに関しては詳しくは保健所になってしまうのですが、厚労省から指導等きているかとは思いますが、原則は県までの公表で、それ以上の、例えば何市のどこで感染が発見された等という公表は、国からの方針ではしないという事であったと認識しています。

齊藤（千）  
委員

そうなんですね。ありがとうございます。

齋藤茂  
委員

今の件でよろしいですか？

今の段階で、政令指定都市では一部公表しているところがあるのですが、それに関しては自治体の判断で公表していると捉えてよろしいのでしょうか？

牧野課長

私も報道で見たというところなのですが、大阪あたりでは一部自治体の判断で公表した、という事があるようです。

ですが、国からの方針では原則公表しない、という事になっているかとは思いますが。

福原会長 他にございませんか？ではないようですので、他に事務局の方からございますか？

平野補佐 事務局よりお願いを申し上げます。  
本日、お配りいたしました資料につきましては、議案提出前でございますので、他者へ口外したり、インターネット、SNS等への公開をしないでいただきますようお願いいたします。  
事務局からは、以上です。

福原会長 他にございますか。  
ないようですので、以上をもちまして、本日の富津市国民健康保険事業運営協議会を閉会といたします。  
本日はありがとうございました。

(午後 2 時 1 8 分閉会宣言)

上記のとおり会議の経過を記載し、事実と相違ないことと証するためにここに署名する。

令和 2 年 月 日

議事録署名人